

自己評価表

愛媛県立みなら特別支援学校（本校）

<p>教育方針</p>	<p>1 一人一人のニーズに応じて、豊かな心を持ち、たくましく生きる力の育成を図る。 2 体験的な学習を充実し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、個性を生かす教育の充実に努める。 3 社会の一員として生活するために、社会性を養うとともに、働く意欲を高め、自立する力の育成を図る。</p>	<p>重点目標</p>	<p>『一人一人のニーズに応じて、生きる力を育む』</p> <p>1 身近な人との関わりを豊かにしながら、生き生きと活動する力を育てる。（小学部） 2 周りの人たちとの関わりを深めながら、自分から表現する力や生活を楽しむ力を育てる。（中学部） 3 社会の中で、自分で判断し活動する力や豊かに生きる力とともに、働く意欲と資質を高め、よき職業人として生活する力を育てる。（高等部） 4 個性を大切にしたり取りを通して、人との関係を広げ、自分を表現する力を育てる。（訪問教育） 5 たくさんの友達と触れ合い、助け合いながら生活する力を育てる。（寄宿舎）</p>
-------------	--	-------------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教材・教具の充実	<p><u>授業がより分かりやすく、視覚的に効果的な教材・教具作りに努めるとともに、ICT機器等を授業で活用するスキルを高める。</u></p>	B	<p>視覚的に効果的な教材作りという観点では教員、保護者ともに 4.2 という高評価である。これに対して教材を授業でどのように活用するか、というスキルの面では教員の自己評価が下がり、どの部も 0.2~0.3 ポイント低くなっている。サーフェスブックやカラープリンタが使用できるようになった、あるいは大型テレビが導入されたなど、ハード面での充実は良かったが、依然として ICT 機器を授業で活用する教員の意識や技能の向上が課題である。</p>	<p>ICT機器の整備については可能などから順次設備を整える。各部に設置されているカラープリンターを有効に活用できる体制を整えて、より効果的な教材づくりに生かす。</p> <p>教員のニーズを踏まえて、引き続き ICT 機器の活用に関する校内研修を行う。現在行っている各部のグループ研修の中に効果的なパソコンの活用に関するものを取り入れて、授業で実践するためのスキルを高める取り組みをしていく。</p>
	各教科等を含めた指導の充実	<p>今まで培ってきた経験を生かしながら、新しいアイデアを取り入れるなど、魅力ある授業の改善に取り組む。</p>	B	<p>教員、保護者ともに 4.1 という高評価である。評価内容の内訳を見ても、高等部の教員評価が 4.0 と、従来よりも高くなっている。この背景には校内研修を通して作業学習における新商品の開発に積極的に取り組んできた成果が表れていると考えられる。実際に文化祭で販売された商品の品数は増えた。</p>	<p>生活単元学習や作業学習は複数の教員によるチームティーチングで実施している。教員一人で授業内容の改善を行うことは難しいので、授業内容をより良くするための話し合いの場を設けたいが、放課後が多忙化している現状を考えると、会議を増やすことは困難なため、校務システム（メッセージ機能）を有効に活用して、意見交換の場を設け、更なる授業改善に取り組んでいく。</p>
	専門性の向上	<p>児童生徒理解と適切な指導支援のために、知的領域免許保有率 90%以上を目指す。</p>	A	<p>今年度中に 4 名の教諭が新規に取得し、平成 31 年 1 月末現在で教諭の知的免許保有率は 93.4%である。昨年の同時期が 86.6%であったことを考えると、大幅な保有率向上を達成した。講師も 6 名が新規取得しており、個々の教員が専門性を高めるために努力していることが分かる。</p>	<p>引き続き、非保有者に対しては取得を呼び掛けるとともに、認定講習等の受講案内を丁寧に行き渡り単位修得がスムーズにできるようにする。2 種免許保有者に対しては、次回免許更新時の延期申請を視野に入れ、1 種免許に上進できるよう、計画的な認定講習の受講を個別に提示する。</p>
児童生徒指	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<p><u>学校生活を主体的に送る態度を育成し、児童生徒一人一人の目標を家庭と共有した指導により、児童生徒の発達の段階や障がいの程度に応じた基本的な生活習慣の確立を目指す。</u></p>	A	<p>保護者、教員ともに 4.2 の評価であり、連絡張や面談、家庭訪問等を通して、児童生徒の実態を把握し、日々の様子を連絡し合うなど、保護者との連携を図った成果であると考えられる。ただし、保護者の中には「アセスメントができていないので個々に応じた指導ができていない。」という厳しいご意見もあった。また、教員からの挨拶については、約 7 割の生徒が肯定</p>	<p>年度初めに行っている新旧学担の引継ぎでは、個別の指導計画等を活用して具体的な支援方法や保護者との連携の図り方をしっかりと引き継ぎ、保護者懇談や連絡張等を通して保護者と丁寧話し合う機会を多く持つとともに、学年や部で児童生徒情報等を共有し、組織的な指導・支援ができるような体制を強化する。そして、児童生徒の実態を正確に把握し、適切で具体的な目標を設定</p>

導				<p>的であるが、挨拶は望ましい人間関係作りの基本であるため、10割に近付くように努力したい。</p>	<p>するとともに、基本的な生活習慣の確立を目指した支援をする。</p> <p>また、児童生徒へ「挨拶」の大切さを伝えるためにも、教員が現状を真摯に受け止め、生徒の模範となるように意識改革をしていく。</p>
	<p>学校生活の充実</p>	<p><u>集団構成や活動の場を工夫し、互いの良さに気付ける学級経営に取り組むとともに、一人一人の具体的な目標を明確にした指導・支援に努める。</u></p>	A	<p>保護者、教員ともに4.2以上の評価であり、「運動会や文化祭などの行事は楽しかった。」と答えた生徒は8割近くになっている。運動会などの大きな学校行事だけでなく、各部別の集会や各学年別の集会などを企画し、多くの場面で児童生徒が活躍できるよう工夫や支援してきた成果であると考えられる。</p>	<p>近年、児童生徒数が増加しているため、学校行事の場だけでなく、各部・各学年での集会や行事を増やし、十分な事前事後の学習の下、それぞれに応じた活躍の場を増やし、自己肯定感の向上を目指す取組の必要性は増している。このことを踏まえ、前年度の取組を振り返りながら、一人一人の目標を明確にし達成感を感じるよう指導・支援していく。</p>
進路指導	<p>進路指導の充実</p>	<p><u>児童生徒一人一人のニーズに応じた進路実現を目指し、保護者への情報提供や研修会の充実及び関係機関との連携に努める。</u></p>	A	<p>教員、保護者ともに4.1以上の評価で、各種の調査や懇談等で児童生徒や保護者の願いを把握し、それぞれの進路先を目指しての現場・校内実習の充実及びニーズを踏まえた各種の研修に努めた成果が評価されたと考えられる。進路関係の行事について、小学部や中学部の保護者の参加が年々増えている。「施設・事業所等合同説明会」では、特に中学部の保護者の参加者数が昨年を大幅に上回った。また、渉外課と連携して行っている「PTA施設見学」では、定員を上回る申込があるなど、小学部段階からの進路に関する意識の高まりを感じた。</p>	<p>今年度の結果に満足することなく、今後も児童生徒一人一人のニーズや願いに応じた進路実現を目指し、現場・校内実習や研修の充実を努める。</p> <p>今年度、保護者の方より、進路指導の進め方についての御意見をいただいた。真摯に受け止め、今後の進路支援の在り方について、課内で充分検討をする。高等部3年生については、実習等の後には必ず、このまま進めてよいか、という意向調査を実施している。担任と連携し、保護者や生徒の気持ちや願いに寄り添い、丁寧な支援を今後も心掛けていく。</p> <p>PTA施設・企業等見学の定員越え状況を踏まえ、ニーズに応じた対応と分析を行う。また、高等部対象にも貸切バスを利用して、父母の会の援助の下事業所等見学を実施し、多くの情報提供を行う。</p>
	<p>キャリア教育の推進</p>	<p><u>卒業後のワークキャリア・ライフキャリアの充実を目指し、各々が連携し、発達の段階に応じたキャリア教育の推進に努める。</u></p>	B	<p>キャリア教育は、全ての教科等や諸行事を含め、学校全体で取り組むべきものであり、今年度も、県のキャリア事業「早期からのキャリア教育」と連携し、発達段階に応じた取組や各部と連携をした取組等の充実を図ってきた。新しい取組として、研修課と連携を図った「事業所等見学（小中学部の教職員を対象）」や支援推進課と連携をした「特別支援研修（教職員・保護者対象）」を実施した。卒業生の働いている様子や事業所での過ごし方を実際に見たり、福祉サービスの利用の仕方や卒業後の支援体制を知ったりすることで、卒業後の生活を意識した授業を考える良い機会となった。</p>	<p>高等部生徒へのアンケート「先生は、いつも挨拶をしてくれますか？」について、25名の生徒が「いいえ」と回答をしていた。また、課会における反省として、他校に比べて自ら挨拶をする生徒が少ないのではとの意見があった。卒業後、どのような進路先を選択する場合であっても、「挨拶」と「身だしなみ」は必要であり、卒業生の生活を豊かにする上でも大切な項目である。各部・関係各課と連携し、充実に努めていく。今年度実施した「事業所等訪問」の事後アンケートでは、肯定的な意見を多くいただいた。卒業後の生活を具体的に意識するためにも、次年度も引き続き実施していく。</p>

安全 教育	学校安全教育 の充実	児童生徒が自らの命を守ろうとする主体的な学習活動を行う。	B	<p>教員、保護者ともに 4.1 以上の評価で、生徒についても 7 割以上が「交通事故や火事でけがをしない方法を教えてくれる。」と回答しており、目標については、おおむね達成できたと考える。また、寄宿舎は 4.6 という高い評価で、安全教育に関する児童生徒の主体的な学習活動を、日頃から推進していることがうかがえる。ただし、災害安全については、近い将来に発生が予想されている南海トラフ大地震に対応した防災教育についての見直しが必要で、安全な避難と学校備蓄の整備に関する取組について充実させることが大切である。</p> <p>PTA の専門部に災害対策部が新設され、「引き渡し訓練」を提案し観察記録をした。保護者向けの訓練として、デイキャンプとニコニコ広場において炊出し訓練をしたり、発電機使用訓練をした。</p>	<p>今年度の実施結果を基に「学校保健計画」や「学校安全教育」の見直しを行い、関係課及び関係機関との連携を密にして、災害安全、生活安全、交通安全の推進に努める。</p> <p>防災学習では、避難訓練や引渡し訓練、期日等告知なしの初動対応訓練それぞれの実施状況についての具体的な考察と事後アンケートの結果を基にして、実際場面により近い効果的で実践的な訓練を企画し実施する。また、今年度より計画的に整備を進めている学校備蓄品の使用目的や使用方法等についての理解を深め、災害時に活用ができるよう学習や研修の機会を設ける。</p> <p>不審者対応では、各部それぞれの児童生徒の実態を考慮した学習形態や学習内容についての検討を行い、より効果的な訓練を実施する。</p> <p>交通安全では、校外学習や遠足等、校外での教育活動において、交通安全教室や日頃から学習している交通規則やマナー等についての指導・支援を徹底する。</p>
	安全な教育環境 の整備	児童生徒が安全で安心して学べる教育環境の整備に努める。	A	<p>教員全体の評価は昨年同様であるが、訪問教育の教員においては、5.0 という高評価で、日頃から児童生徒の安全に関する意識の高さがうかがえる。保護者の評価は 0.1 上がっている。いずれも 4.2 以上の評価があり、目標は概ね達成できたと考える。5 月の生徒総会において、生徒から「使えなくなった遊具の撤去をしてほしい」との要望があり、教職員環境整備の際に撤去できたことは、生徒の意見を反映する意味でも良かった点である。窓ガラスの破損については、数件の報告があったが、飛散防止フィルムの設置により、怪我は最小限であった。学校環境検査においては、異常は認められなかった。</p> <p>後援会の援助を受けて防災用物品や備蓄品の充足を行い、保管場所においても整備した。</p>	<p>今年度、総務課を中心にヒヤリハットの事例報告を実施したことにより、安全への意識が高まったが、改善には至っていない。各部、関係各課と連携を図りながら事故防止の環境整備に努める。毎月の安全点検についても引き続き呼びかけていき、是正処置が必要な場合は早急な対応をする。</p> <p>防災関係の物品については、継続的な補充が必要であり、後援会と連携しながら充実させる。</p>
教育 相談 体制	人権・同和教育 の充実	お互いを認めて尊重し合い、全ての児童生徒が「学校に行きたい」と思う学校づくりに努める。	A	<p>教員、寄宿舎、保護者の平均が高い数値（4.8～4.3）であり、良好な達成状況である。</p> <p>生徒へのアンケートで、「嫌なことやつらいことがあったとき、先生は話を聞いてくれるか」という項目において、「はい」の回答において前年度比 10 名（3%）の増加が見られ、多くの生徒にとって学校が安心して生活できる場となっていると考えられるが、「いいえ」の回答が 16 名（9%）であり、前年度比 6 名（3%）増となっており、課題も見られる。</p>	<p>今年度はいじめアンケートを年 3 回実施し、いじめの早期発見に努めたり、いじめ問題対策委員会を実施したり、積極的にいじめの実態の認知をし、情報共有を行ったことで、重大な事態を未然に防ぐことができた。来年度も児童生徒のトラブルに関しては、児童生徒との面談や聞き取り、アンケート調査をもとに、早期発見、早期対応を心掛け、担任だけではなく学年や部など多くの教職員で対応することを呼び掛ける。</p>

<p>個別の教育支援計画の活用</p>	<p><u>個別の教育支援計画について、作成方法や評価方法を見直す。支援会議を年間 80 回程度（小学部 30 回、中学部 20 回、高等部 30 回）開催し、個別の教育支援計画を有効に活用する。</u></p>	<p>B</p>	<p>個別の教育支援計画について前年度の上書きをせず、サービスの利用状況や目標などについて見直しや保護者、関係機関との確認を十分に行ってもらった。最終の保護者の確認を受ける前に各コーディネーターで支援計画を確認した。各担任に手間を掛けしたが、目標や支援が昨年と全く同じということはなくなった。小学部は教員・保護者共に教育支援計画の活用にある程度の成果を感じているが、中学部・高等部はまだ上手に活用できていない。支援会議の回数は昨年度程度であり目標の達成はできなかった。</p>	<p>教育支援計画については次の視点での様式になるよう来年度、各課・委員会と連携しながら見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・本人、関係各所、教職員が活用しやすいものにする。 ・保護者・本人の願いが目標設定につながりやすい形での聞き取りシートにする。 ・個別の指導計画・自立活動の指導計画と連携し、効率化を図る。具体的には、実態をフェースシートで一本化したり、自立活動の視点を取り入れた目標設定したりする。 ・合理的配慮の記入欄を設ける。 <p>支援会議については、「支援教育だより」などで案内する。</p>
<p>専門性の向上</p>	<p><u>校外で教職員対象の研修を年間 10 回程度行うなど、センター的機能の充実に努める。保護者や地域の学校等のニーズに応じた教育相談、学校参観の機会を増やす。</u></p>	<p>B</p>	<p>教育相談については地域の学校や各市町の教育委員会とも連携をしながら行えた。松山市の幼児児童生徒の相談が多くなっており、支援委員会や相談協力員の人数を増やすことが必要と思われる。</p> <p>地域支援を依頼する小中学校は毎年同じ学校になってきている。県立の高等学校からの研修依頼が 2 件あり、コーディネーターで対応した。父母の会費用を使つての研修会をする機会を得て、保護者も参加できる研修会が実施できた。それらを含めて年間 10 回程度の研修の目標を達成した。</p>	<p>高等学校の相談などにも適切に対応していけるようコーディネーターの研修を行い、スキルアップする。</p> <p>父母の会の費用を活用しての研修会も引き続き行う。その際に研修の内容や講師について保護者や教職員のニーズに合うようアンケートなどで情報を収集する。</p> <p>地域の学校や保護者からの教育相談の申し込みにもメールでも行えることを、より広く周知していく。</p>
	<p><u>本校の教育活動に関する情報発信を積極的に行い、ホームページアクセス数を年間 10 万以上、授業参観者数（保護者、施設関係者等）1100 人以上を目指す。</u></p>	<p>B</p>	<p>前年度に比べて公式ホームページへのアクセス数は 4 倍になり、3 月には 12 万アクセスを達成した。</p> <p>2 月の一日授業公開が終了した時点で 1253 人の参観者があり、目標を達成した。</p>	<p>ホームページに掲載する内容や写真の枚数、写真の解像度等を検討し、外部の方々により分かりやすいホームページを構築する。</p> <p>学校評価における学習指導と児童生徒指導の項目においては、実際に授業を参観したり教材を見たりしなければ、評価が困難であることから、今後も参観しやすい日程の検討をする。引き続き、ホームページやメールにより、幅広く参観日の情報を発信し、学校に足を運んでくれる保護者や関係者を増やす。</p>